

一般質問通告表

平成29年第1回始良市議会定例会（3月10日（金） 午前10時開会）

氏名	質問事項	質問の要旨	質問の相手
11. 神村 次郎	1. 国民健康保険事業について	<p>県内の国民健康保険事業の財政状況を見ると、実質的収支が赤字の団体は29団体（全体の69パーセント）、法定外繰入れをしている団体は37団体（全体の86パーセント）、前年度繰上充用している団体は全体の16パーセントとなっている。30年からの広域化に向けた協議が進められている。</p> <p>高齢者、無職者、低所得者が多い国民健康保険事業を県に広域化しても、より大きな低所得者保険集団になるだけで、高額な保険料負担という矛盾は解決できない。これでは国民皆保険制度は崩壊する。</p> <p>以下について問う。</p> <p>(1) 国の補助金が十分でないという構造的な問題がある。市民の保険料負担は限界にきている。国の財政支援は望めるか。</p> <p>(2) 平成30年から新制度になり、県が財政運営の主体になるが、安定的な財政運営は可能か。</p> <p>(3) 現在の財政の赤字解消・削減は、本県ではどのように進められるか。</p> <p>(4) 「収納インセンティブ」県が設定する収納率目標よりも高い収納率を上げれば、「標準保険料率」より安い保険料率を設定する等が検討されているが、このような状況の違う団体を「あおる」ような制度が、国民健康保険制度に馴染むのか問う。</p>	市長
	2. 加治木庁舎を中心とする多極ネットワーク型コンパクトシティの推進について	<p>日常生活圏における生活サービス機能、コミュニティ交流機能を拠点地域に立地誘導し、公共交通の連携により複数の拠点に誘導をはかる多極ネットワーク型コンパクトシティのまちづくりを推進しているが、</p>	市長 教育委員長

氏 名	質 問 事 項	質 問 の 要 旨	質問の相手
	<p>3. 黒川海岸付近の整備について</p>	<p>合併後、落ちこみが続く加治木総合支所を中心とした地域で、庁舎の複合施設も検討されている。これらを総体的に検討できないか問う。</p> <p>(1) 加治木庁舎での複合施設とは、どのようなものを想定しているのか問う。</p> <p>(2) この地域で多極ネットワーク型コンパクトシティとは、具体的には、どのようなものになるか問う。</p> <p>黒川海岸は、昭和の年代・海水浴や釣り、散策する人で賑わった。川や海で遊泳しなくなり、歩道橋が無くなり、市民が海岸から遠ざかっていって、現在のように荒れてきたようである。幼少時代や青春時代を加治木で過した人や市内に住む市民からも景勝の地として、改修・整備できないかとの声がある。</p> <p>以下について問う。</p> <p>(1) 都市計画マスタープランでは、日木山川並びに海岸を「水の軸」として、景観と交流の場を育成するとしている。検討されていないか問う。</p> <p>(2) 10号線からの進入路、日木山川の堤防の舗装、現在は車2台しか駐車できない駐車場の整備はできないか問う。</p>	市 長
12. 竹下日出志	<p>1. 発達障がいのある子どもの支援について</p>	<p>発達障がいは、周囲からなかなか理解されにくい障がいであり、一人で悩みを抱えてしまう保護者もいる。このような保護者に対して、同じ発達障がいのある子どもを持つ保護者が相談相手となって、悩みを共感したり、自分の子育て経験をとおして子どもへの関わり方等を助言したりする、ペアレントメンターという保護者がいる。</p> <p>本市でも、ペアレントメンター養成研修を開催する考えはないか。</p>	市 長 教育委員長

氏 名	質 問 事 項	質 問 の 要 旨	質問の相手
	2. 放課後児童対策の充実について	<p>また、安心して暮らせる療育機能の充実を図るため、専門家が常駐しワンストップサービスができる（仮称）発達支援室、発達支援センターの設置はできないか。</p> <p>放課後児童健全育成事業として、保護者の就労や疾病等の理由で、放課後に保護を受けることができない小学校に就学している児童に対して、放課後に生活の場、適切な遊びの場を提供する放課後児童クラブがある。（一般的には「学童保育」と呼ばれることが多い。）児童福祉法の改正により、小学校6年生まで利用可能となっている。</p> <p>（1）本市の放課後児童クラブの管理運営と、利用状況を問う。</p> <p>（2）今春、イオンタウン始良東街区開業に伴い、雇用の機会に恵まれ、働く女性の増加により放課後児童クラブに待機児童が予想される。対応をどのように考えているか。</p>	市 長 教育委員長
	3. 災害時の情報伝達多様化の推進について	<p>本市の総合計画では、災害時の通信手段について、すべての市民に情報が伝達できるよう情報伝達手段の多様化を推進し、整備するするとともに、関係機関との通信が不通とならない通信手段の強靱化に努める、とある。</p> <p>（1）桜島火山爆発や地震、津波、台風、洪水、高潮等の災害発生時に、避難行動が求められる、脇元海岸地域の各戸に、防災行政無線戸別受信機（FMラジオ付受信機）を設置できないか。</p> <p>（2）今春、イオンタウン始良東街区内に「あいらびゅーFM」の開局時に、自治会等で結成された自主防災組織を中心に防災・避難訓練を実施する考えはないか。</p>	市 長 教育委員長

氏 名	質 問 事 項	質 問 の 要 旨	質問の相手
13. 新福 愛子	1. 3月3日の「耳の日」に寄せて	<p>「耳の日」は、難聴と言語障害をもつ人々の悩みを少しでも解決したいという社会福祉への願いから始められたもので、日本耳鼻咽喉科学会の提案により、昭和31年に制定された。</p> <p>また、この日は電話の発明者であり、ろう教育者であったグラハム・ベルの誕生日でもある。</p> <p>(1) 新生児期に先天性の聴覚障害の発見を目的として実施する「新生児聴覚検査」について、本市における受診状況と課題を問う。</p> <p>(2) 聴覚・言語機能・音声機能などの障がいをもつ方々の意思疎通支援として、本市でも手話通訳者が活躍され、誰もが安心して暮らしやすいまちづくりが進んでいる。</p> <p>この手話通訳と並んで、中途失聴や難聴者の集会や会議の場などで使われる要約筆記があり、要約筆記者の養成は専門性が高いことから手話通訳者の養成と同様、都道府県が行っている。</p> <p>本市での要約筆記者の養成に対する考えを問う。</p>	市 長
	2. 子育て支援策に「祖父母手帳」と「20歳までの母子手帳」の導入を	<p>(1) さいたま市では“祖父母や親たちのさまざまな愛情に包まれて子どもたちに健やかに成長してほしい“、そんな願いから「さいたま祖父母手帳」が誕生した。</p> <p>祖父母が育児をしていた時代に比べ、情報が多く変化している中で、現在の育児を学び父母との関係を円滑にするとともに、「地域における子育て」の担い手となるきっかけとするためにも作成されたという。本市でも導入を検討する考えはないかを問う。</p> <p>(2) 妊娠中から子どもが20歳になるまで記録できる母子手帳が誕生した。</p>	市 長

氏 名	質 問 事 項	質 問 の 要 旨	質問の相手
	<p>3. 引き渡し訓練について</p>	<p>本市をはじめ、一般的な母子手帳の記載欄は6歳までだが、成人までの予防接種履歴や病歴などを記録して大人になってからの健康管理に役立つ。また、児童虐待の防止や発達障がい早期発見につながる記述も盛り込んであり、地元の相談機関などの連絡先などを目立つところに掲載し、親が直面する課題に応える内容にもなっている。本市でも導入を検討する考えはないかを問う。</p> <p>児童・生徒が在校中に地震や大雨、火災などの災害が発生した時、また不審者の侵入、近隣で事件性を伴う事案が発生した時、さらに児童・生徒だけの下校が危険と判断される緊急時の対応を問う。</p> <p>また、各地で広がっている保護者を含めた「引き渡し訓練」に対する本市の対応を問う。</p>	<p>市 長 教育委員長</p>
<p>14. 峯下 洋</p>	<p>1. 議会と行政が連携した改革について</p> <p>2. 老後の生きがいについて</p>	<p>昨今、議会改革が叫ばれ、本市も議場システムの導入（議場モニター、電子表決システム、インターネット動画配信）などにより、開かれた議会、「見える化」に取り組んでいるところである。</p> <p>最近では、経費削減（ペーパーレス化、事務の効率化、ごみの問題、資源の保護）などの一環で、タブレット導入を推進している議会や自治体が増えてきているがどのように考えるか問う。</p> <p>(1) 平均寿命も伸び、世界でも有数の長寿大国となり、以前では考えられなかった問題が起きている。例えば認知症の高齢者が高速道路を逆走したり、登校途中の児童生徒に突っ込んだり、悲惨な事故の当事者となっている。このような現実</p>	<p>市 長 市 長 教育委員長</p>

氏 名	質 問 事 項	質 問 の 要 旨	質問の相手
	<p>3. 子育て支援策について</p> <p>4. 校区コミュニティの活用について</p>	<p>を本市としてはどのようにとらえ対処する考えか問う。</p> <p>(2) 上記のような事故をなくすための手立てとして、免許返納者に対する交通手段の具体策を問う。</p> <p>(3) スポーツをとおして健康維持に努めている市民も多いが、本市としては高齢者のスポーツ人口を把握しているのか問う。</p> <p>また、高齢者のスポーツ人口を増やすための取組みについて問う。</p> <p>(4) 本市では温泉保養券、はり・きゅうおよびマッサージ施術券等を発行しているが、現在の利用状況を問う。また、公共交通機関で使用できるような「共通券の発行」をすることは考えないか問う。</p> <p>(1) 待機児童問題と今後の対応について</p> <p>(2) 入所選考基準指数調整表によると、産後復帰は「+4点」となっているが、安心して仕事と子育てを両立させるために産後の職場復帰については、母子家庭同様に優先する考えはないか。</p> <p>(1) 4月から松原地区公民館が、松原なぎさ校区コミュニティ協議会に指定管理になるが、従来とどのような点が変わるのか問う。</p> <p>(2) 校区内の見守り活動について、登下校時の見守り中に危険を感じたことを定期的に集約する仕組みは整っているのか問う。</p> <p>(3) 松原なぎさ校区内で信号の設置と横断歩道の整備要望がでている箇所について、その後の進捗状況について問う。</p>	<p>市 長</p> <p>市 長 教育委員長</p>

氏 名	質 問 事 項	質 問 の 要 旨	質問の相手
		<p>各種具体的な施策をみると、コミュニティFM整備やWi-Fi環境の充実、防災行政無線のデジタル化推進、防犯カメラ設置など、市内の至るところでメディア環境が充実されることも来年度予算の大きな特徴と捉えられる。</p> <p>もはや死語であるが、来年度は本市におけるマルチメディア元年とも言える。これらの“もの”を複層的に連携・連動させることで、市民生活にも新しい価値が創出され、“こころ”を潤したり、熱くする「質の高い居住空間」が形成されるものと思われるが、具体的な活用イメージを示せ。</p>	